

本案ヲ米國原案ニ比較スルニ合衆國ハ原案ト等シク主力艦三十隻ヲ廢棄ス但シ未成艦十五隻ハ十三隻トナリ舊式艦十五隻ハ十七隻ト爲レリ廢棄セラルヘキ主力艦ノ總噸數ハ建造中ノモノヲ合セ完成ノ曉ニ於テ八十四萬五千七百四十噸ヲ數ヘシカ本案ニアリテハ同様ノ計算ニ於テ八十二萬五千四百四十噸トナル

保有セラルヘキ日本ノ艦數ハ原案ニ同シ、原案ニ依リ廢棄セラルヘキ總噸數ハ未成艦完成ノ曉ニ於テ四十四萬八千九百二十三噸ナリシカ本案ニアリテハ同様ノ計算ニ於テ四十三萬五千三百二十八噸ト爲ル

英國ノ廢棄艦數ハ原案ニ從ヘハ主力艦十九隻(既ニ廢棄セラレタル前弩級艦ヲ合セ)ナリシカ本案ニ依レハ更ニ四隻ヲ加ヘ合計二十三隻ヲ廢棄スルコトナル、米國カ廢棄スヘキ總噸數ハ起工セルモノトシテ原案ニ掲ケラレタル新「フード」(Hood)四隻ヲ合セ完成ノ曉ニ於テ五十八萬三千三百七十五噸ト計算セラレタリ本案ニアリテハ同様ノ計算ニ於テ二萬二千六百噸ヲ増加シ合計六十萬五千九百七十五噸トナレリ

米國ノ原案ニ從ヘハ廢棄セラルヘキ主力艦ハ完成未成ヲ合算シ六十六隻百八十七萬八千四百三十三噸(建造中ノモノヲ完成シタルモノトシ)ナリシカ本案ニアリテハ同様ノ計算ニ於テ六十八隻百八十六萬千六百四十三噸ト爲ル

主力艦ニ關スル十年間ノ海軍休暇ハ上記諸艦ヲ建造スルノ外米國政府ノ原案實行セラルヘキモノトス

日米英三國間ノ本協定ハ保有並廢棄セラルヘキ艦數ニ關スル限り目下進行中ニ係ル主力艦ニ關スル佛伊兩國トノ圓滿ナル協定成立ヲ俟テ決定セラルヘキモノトス

第二節 佛伊ノ海軍及會議再開問題

概説

米國ハ先ツ日英米三國ノ海軍制限ニ關シテ提案シ佛伊ニ及ハサリシコト既述ノ如クナルカ十二月十五日日英米三國間ノ假協定ノ成立スルヤ同日午後直ニ日英米佛伊五國ノ全權及海軍専門委員ヨリ成ル十五人委員會ヲ招集シテ佛伊ノ海軍問題ノ審議ニ入り主力艦ニ關スル限り四回ノ十五人委員會二回ノ總委員會ニ於ケル討議ヲ經テ決定セリ、佛伊ノ主力艦ヲ審議スルト共ニ將來今次ノ協定改訂ノ爲メ開カルヘキ會議ノ件モ論セラレタリ

以下議事録ニ依リ會議ノ經過ヲ略述スヘシ

第一款 海軍軍備制限問題ニ關スル十五人委員會ニ於ケル討議

十五人委員會ノ成立

十五人委員會 (Sub-Committee of Fifteen on Naval Limitation)

組織ハ十二月十二日第十五回極東委員會ノ終了後(第三回軍備制限總委員會)「ヒューズ」氏ヨリ從來ノ海軍専門家ノミノ分科會ニ代ヘテ各國全權一名及全權若クハ全權ニ非ラサル文官及武官各一名ヲ以テ一分科會ヲ作ルコトヲ提議シタルニ由來シ意見交換ノ結果全權以外ハ凡テ武官トスルモ差支ナシトノ諒解ノ下ニ成立セリ斯クテ其第一回ヲ十二月十五日午後汎米會館「ロンズ」室 (Columbus Room, Pan American Building) ニ開キ爾來第二回十二月十六日午前第三回十二月十七日午前第四回十二月二十日午前四回ニ渡リ主トシテ佛伊ノ主力艦問題ヲ議シタリ同委員會ニ出席セル各國委員左ノ如シ

十五人委員會出席者

合衆國 (國務卿ヒューズ氏(議長)) (Mr. Hughes)

海軍次官ルーズヴェルト氏 (Colonel Roosevelt)

クーンツ大將 (Admiral Countz)

英帝國 (バルフォア氏) (Mr. Balfour)

リー卿

(Lord Lee)

チャトフィールド海軍少將

(Rear Admiral Chatfield)

佛蘭西國

殖民大臣サロウ氏

(Mr. Sarrail)

駐米大使ジュスラン氏

(Mr. Jusserand)

ドゥ、ボン海軍中將

(Vice-Admiral de Bon)

伊太利國

上院議員シャントエ氏

(Senator Schauzer)

上院議員アルベルティニ氏

(Senator Albertini)

アクトン海軍中將

(Vice-Admiral Acton)

日本國

海軍大臣加藤男爵

(Admiral Baron Kato)

加藤中將

(Vice-Admiral Kato)

上田大佐

(Capt. Uryeda)

第一項 第一回十五人委員會(十二月十五日午後)

○議長(ヒューズ)(米)

第一回十五人委員會

海軍制限問題ノ第一タル主力艦制限案ハ、日英米三國ノ海軍ニ對シテ特ニ多大ノ犠牲ヲ要求スルモノニシテ佛伊兩國間ニ對シテハ同一ノ比率ヲ以テ律シ難キ事情アルニ鑑ミ、先ツ右三國ノ間ニ協議ヲ遂ケタル處、幸ニシテ互讓ノ精神ニ基ク次ノ如キ假協定ヲ見ルヲ得タリ。(第二章第一節第四款公表文參照)但右ノ假協定ハ佛伊兩國側ニ於ケル適當ナル協定ヲ條件トシテ成立セルモノナルヲ以テ右ノ假協定ヲ完成セムカ爲メニ本委員會ニ於テ佛伊兩國側ノ意見ヲ聽取セムコトヲ望ム

○サロウ(佛)

サロウ

由來平和ニ對シテハ常ニ忠實ノ友タリシ佛國ハ三大海軍國ノ間ニ於テ成立セル海軍制限假協定ニ對シテ滿腔ノ喜悅ヲ表スト共ニ佛國ニ於テモ亦他ノ列強ノ希望ニ副フカ如キ協定ニ加入セムコトヲ望ムノ外他意アルナシ但如斯協定ハ佛國カ世界ノ一強國トシテノ地位ヲ保ツニ主要ナル條件ヲ充スニ於テ始テ望ミ得ヘキ所ナリ然ルニ佛國ハ本會合以前ノ商議ニハ參加スルコトナキヲ以テ佛國ノ要望スル所ハ會議ニ於テ充分知悉セラレサル所ニ屬スルモノト信ス依ツテ「ドッボン」中將ヨリ佛國ノ海軍事情ニ關シ詳細精密ニ説明スル所アルヘシ

○ドッボン「中將(佛)

ドッボン
佛國海軍
現狀

佛國ノ海軍事情ハ全然例外的且獨特ナルモノニシテ、之ヲ日英米三國ノ事情ト同一視スル能ハサル點アリ

開戦以來佛國造船所ハ佛國陸軍及聯合國陸軍ノ軍需品ノ製造ニ充當サル所トナリ從ツテ佛國ニ於テハ新艦建造ノ中止ハ勿論現存艦隊ノ修復マテモ之ヲ差控ヘサルヲ得サリキ。右ノ工事ニ費セル時日ト材料ヲ軍艦ノ建造ニ換算セハ優ニ二十萬噸ニ當ルモノアリ、從ツテ佛國ハ自國及聯合國ノ陸軍ノ利益ノ爲メニ二十萬噸ノ海軍ヲ失ヘルモノト謂フヘシ。ソノ結果現在ニ於テハ佛國ノ海軍ハ殆ント無ニ等シキモノトナリ佛國海軍現勢ヲ評價スヘキ實際上ノ基礎全然存セサルニ至レリ之ヲ以テ制限ノ基礎タルヘキ佛國海軍ノ位置ヲ正當ナラシメンカ爲メニハ、「戦争若シ起ラサリセハ」トノ假定ノ上ニ立ツノ必要ヲ生ス

千九百十二年ノ法律ニ依リ佛國海軍ハ二十八隻ノ戰艦ヲ以テ組織スヘキ旨決定セラレタルカ開戦當時ニ於テ既ニ其二十三隻ハ進水ヲ了シ殘ル五隻モ既ニ建造中ナリシヲ以テ右ノ海軍案ノ實行ハ開戦當時ニ於テ確保セラレ居リタルモノト云フヘシ。而シテ上記海軍案カ實現サレ居リタリトセハ佛國海軍ハ現今二十八隻六十九萬五千噸ノ主力艦ヲ有シ居タル筈ナリ

然ルニ戦争ノ勃發ノ爲メ上記ノ海軍案ノ實現ハ上述ノ理由ノ爲メニ中止セラレル所トナリ佛國ニ於テハ戦争以來既ニ艦齡二十年以下ノ弩級艦七萬四千六百七十四噸、及一部建造中ノ(其ノ或者ハ七割五分迄完成セル)軍艦十二萬六千噸ヲ廢

棄シ、議會ノ協賛ヲ經タル十三萬五千噸ノ新艦建造ニ十二萬噸ノ代艦建造ヲ拋棄セリ。從ツテ戰爭以來佛國ハ他國ニ先チ合計四十五萬五千六百七十四噸ノ縮少ヲ實行セルモノニシテ、本會議ニ提案セラレタル海軍制限ハ佛國ニ於テハ既ニ千九百十四年ニ開始セラレ居タルモノト稱スヘシ

事情如斯現今佛國ノ海軍ハ弩級艦七隻(地中海)弩級前艦三隻(北海)ヨリ成リ就役中ノ主力艦總噸數二十二萬一千二十二噸ニシテ之ニ非就役「コンドルセー」(Condorcet)型一隻ヲ加フレバ二十三萬九千七百七十六噸ニ過キス

嘗テハ世界最大ノ海軍國タリシコトアル佛國ノ海軍事情今ヤ斯ノ如シ。佛國國民ノ海軍充實ヲ熱望スルヤ亦故アリトナササルヘカラス。但シ佛國ハ單ナル國家ノ傳統的榮譽心ノ満足ノ爲メニ海軍充實ヲ叫フモノニアラス。世界第二ノ殖民國タル佛國ノ地位實ニ之ヲ要求スルモノナリ

佛國ハ今ヤ本國人口三千九百萬。殖民地人口六千萬ニ上リ母國ハ其ノ生活物質ノ必要上ノ殖民地ニ依頼スルコト急ナリ

然カモ殖民地アル處ニ海軍ヲ必要トスルノ理ハ有史以來公認セラレタル公理ニシテ、佛國ハ此ノ公理ニ基キ之ニ適應スルノ海軍ヲ有セサルヲ得サルナリ

然リト雖モ會議全體ニ充滿セル人道の空氣ニ接シ又米國ノ提案ニ對シテハ列強カ舉ツテ之ニ同意ヲ表セル寛容ナル精神ニ鑑ミ佛國モ亦更ニ一步ヲ進メラ暫ク主力艦建造ノ案ヲ中止スルコトニ決シ、其ノ必要ノ最小限度ニ佛國海軍ヲ制限セムカ爲メニ次ノ提案ヲナサントス

茲ニ實際の提案ヲ爲スニ當リ注意ヲ要スルハ日英米ノ三國海軍制限ニ於テハ噸數單位(tonnage unit)ヲ標準トシテ用ヒタルモ右ハ上記三國ノ如キ大海軍國ニ對シテ始メテ有效ナルモノニシテ佛國ノ如キ特殊國ニ對シテハ斷シテ適當ニ非ラス。例ヘハ佛國カ二十二萬噸ノ噸數制限ヲ受諾シタリト假定セムニ右ハ三萬五千噸ノ軍艦ヲ以テ之ニ充ツレハ技術上殆ント一艦隊ヲ編成スルニ足ルノ最低限度ニ及ハサルナリコレ佛國海軍ヲ無効ナラシムルモノト言ハサルヘカラス何ントナレ

ハ軍艦ハ軍艦自體トシテ有效ナルニアラス、艦隊ヲ編成スルニ於テ始メテ有效ナルモノナレハナリ。之ヲ以テ佛國ノ如キニ對シテハ噸數單位ヲ用ユルコト不當ニシテ寧ろ艦數單位(cathedral unit)ヲ必要トス、即チ佛國ハ現在保有スル主力艦十隻ニ對シ其ノ代艦ヲ必要トスルモノナリ。佛國ハ始メ地中海ニ八隻、北海ニ四隻合計十二隻ノ戰艦ヲ建造セムコトヲ欲セリ。然レトモ抑損シテ自ラ之ヲ十隻ニ制限セリ、サレト右ハソノ讓歩ノ最小限度ニシテコレ以下ニ下ルコトハ絶對ニ不可能ナリ

尙一言スヘキハ此度ノ海軍休暇案ハ一千九百二十一年ヲ起點トシテ十年ヲ期限トセルモ、茲ニ注意スヘキハ上述セル如ク佛國ハ千九百十五年ヨリ既ニ自ラ海軍休日ヲ實行セルノ事實ナリ之ヲ以テ佛國ニ於テハ休日期限ハ千九百二十五年ヲ以テ終了スルモノナリ、素ヨリ佛國ハ單ニ此事實ニ基キ海軍休暇期限ノ短縮ヲ主張スルモノニアラス現存佛國軍艦ハ千九百三十年乃至三十三年又ハ三十四年ヲ以テ全部老廢艦トナルヘキヲ以テ千九百三十年迄代艦建造ヲ待ツハ佛國ノ財政及海軍造船所ノ事情之ヲ許サス、之ヲ以テ海軍休暇ノ思想ハ之ヲ歡迎スルモノナリト雖モ佛國ニ於テハ千九百二十六年ノ末又ハ千九百二十七年ヨリ代艦建造ヲ開始スルハ誠ニ止ムヲ得サル事ニ屬ス

エシャント ○エシャント (伊)

三大海軍國ノ間ニ成立セル協定ニ對シ滿腔ノ満足ヲ表スルト共ニ、伊國カ之ニ參加スルニ付キ充分ノ熱心アルコトヲ表明セムト欲ス、モトヨリ自ラハ専門家ナラサルヲ以テ伊國海軍ノ現勢ニ關シ詳細ノ點ニ付テハ「アクトン」中將ヲ煩ハシ余ハ單ニ伊國ノ支持スル次ノ二大原則ヲ聲明スルニ止ム。第一ハ伊國海軍ハ佛國海軍ト均勢タルヘシトノ原則ニシテ右ハ既ニ「ヴィヴィアニ」(Viviani)及「ブリアン」(Briand)ノ承認セルトコロナレハ議論ノ餘地ナカルヘシ。第二ハ海軍軍備ヲ純粹ノ防禦の海軍政策ニ絶對ニ必要ナル程度ニ制限スヘシトノ原則ニシテ右ハ戰爭ノ經濟的影響ヨリ國民ヲ救済スル爲メニ伊國全權ノ支持セムト欲スル所ナリ

右ノ二原則ノ下ニ伊國ハ米國原案ヲ承認スルモノナリ

第二項 第二回十五人委員會(十二月十六日午前)

第二回十五人委員會
伊國海軍ノ現勢

○「アクトン」中將 (伊)

戰時中伊國ハ「カラキオロ」(Aracielo)型ノ超弩級艦(排水量三萬一千五百噸、速力二十八節、十五吋砲)四隻十二萬六千噸ヲ建造中ナリシ處、海上權力聯合軍ノ手ニ歸シタル事實ニ鑑ミ右ノ中三隻ヲ破棄シテ其鐵板ヲ商船ノ修復建造ニ使用シタリ。殘ル一隻「カラキオロ」號ハ二年前進水セルカ右モ亦建造後直チニ賣却セリ

從ツテ現在伊國海軍ノ主力ハ「レオナルド、ダ、ヴィンチ」

(Leonardo da Vinci)(沈没後浮揚機裝セルモノ)ヲ含メテ弩級艦六隻十三萬二千噸ニ過キス。其他「ヴィトリオ、エマヌエル」(Vittorio Emanuele)型弩級前艦總噸數五萬噸ヲ有ス。右ハ上記超弩級艦四隻ヲ以テ代艦セラルヘキ筈ナリシモノナリ

要スルニ現在伊國ハ弩級艦六隻十三萬二千噸及之ニ弩級前艦四隻ヲ加ヘテ合計噸數十八萬二千噸ヲ有スルニ過キス。若シ之ニ上記四隻ノ超弩級艦ヲ加フレハ、弩級艦以上ニテ二十五萬八千噸、總噸數ニテ三十萬八千噸ヲ保有セシ筈ノモノナリ

○議長 (米)

會議ハ日英米三國ノ海軍制限ヲ論スルニ當ツテ國家的榮譽心ノ満足ヲ標準トセス、現在勢力ヲ基本トシテ論定セリ。右三國間ニ上述ノ如キ假協定ノ成立ヲ見ルヲ得タルハ實ニ之ニ所以ス

若シ後者ヲ標準トシテ採リタリト假定セムカ例ヘハ米國ハ二大洋ニ跨ル海岸線ト二億ニ上ル人口ト加フルニ天資物産ノ豐富ヲ以テシ、若シ他ノ何レノ一國カ米國ニ對シテ海軍競争ヲ挑ムコトアランカ其國家的榮譽心ハ之ニ敗レサル決心ト根據ヲ有スルモノナリ

若シ米國海軍ヲ制限スル代リニ之ヲ二倍スヘシトノ報ニ接セムカ米國海軍當局ハ正ニ欣喜シタルナルヘシ

然リト雖モ斯ノ如キハ會議ノ精神トスル所ニアラス米國ハ戰爭ノ結果世界一般人民ノ上ニ繫レル經濟的負擔ヲ輕減スル爲メニ率先シテ努力スヘキ重大ナル責任ヲ自覺シ、其國民的榮譽ノ觀念ヲ拋棄シテ無益ナル軍備競争ニ終末ヲ與ヘ、以テ今後ノ世界經濟ノ恢復事業ニ貢獻スルトコロアランコトヲ希望セリ。從ツテ軍備制限ヲ論スルニ當ツテハ國家的榮譽心ノ満足、立國上ノ必要等ノ論點ヲ避ケ「現在海軍勢力ノ比率ハ變更スヘカラス」トノ原則ヲ基準トシテ論セリ。之レ日英米三國間ニ假協定ヲ見ルヲ得タル所以ナリ

現在海軍勢力ノ上ヨリ佛國ヲ視ルニ佛國ハ弩級艦七隻十六萬五千噸ヲ有ス他ニ弩級前艦三隻(非就役一艦ヲ加フレハ四隻)五萬六千六百七十噸アリテ之ヲ加フレハ主力艦二十二萬一千噸トナルモ弩級前艦ハ原則トシテ代艦ヲ許ササルモノニシテ、日英米三國ハ共ニソノ大多數ヲ廢棄シ又ハ廢棄セントシ、右ニ付何等代艦ヲ要求スルコトナシ弩級前艦ニ對シテ其ノ代艦ヲ要求スルハ制限ニアラスシテ擴張トナルヘケレハナリ

米國ニ付テ弩級前艦以外現在及建造中ノ主力艦ノ縮少ノ割合ヲ述フレハ、米國ハ八十四萬七千噸ヨリ之ヲ五十二萬五千噸ニ縮少セルモノナリ、此ノ割合ヲ佛國ニ適用スルトキハ十六萬四千五百噸ノ現存艦ニ對シテ縮少海軍ハ十二萬二千噸トナルヘク佛國ニ限リ前弩級艦ヲ計算ニ入ルト雖現勢二十二萬一千噸ニ對シテ縮少海軍ハ十三萬五千噸トナラサルヘカラス

但吾人ハ佛國ノ特殊事情ニ對シテハ特別ノ考慮ヲ加フル必要アルヲ感知スルモノナルヲ以テ三國ト同率ノ縮少ヲ佛國ニ迫ルモノニアラスト雖佛國ノ三萬五千噸級十隻案ノ如キハ凡テノ特殊事情ヲ考慮ニ入ルルモ尙ホ到底承認シ難キ所以ナリ

佛國ノ現勢ハ佛國側主張ノ如ク正ニ戰爭ノ結果ナルヘク右ハ誠ニ同情ニ堪ヘサル所ナルモ現勢ハ現勢ニシテ動カスヘカラス佛國ハ他ノ列國ニ對スル海軍比率ヲ高メント欲スルモ右ハ佛國ノミニ關スル問題ニアラスシテ他ノ列強ニ關係スル問題ナリ。例ヘハ米國カ當初ノ海軍計畫ヲ實現セリト假定スレハ百十萬噸ノ軍艦ヲ有シタルヘク右ハ佛國ニ對シテ五對

一ノ比率ヲナスヘシ、若シ之ニ等級前艦ヲ加フレハ比率ハ更ニ増大スヘシ、英國ト雖同様百萬噸以上ノ軍艦ヲ保有シタリシナルヘク英佛海軍比率ハ六對一トナルヘシ此比率ハ佛國自體ノ努力ニヨツテ變更サルヘキモノニアラスシテ單ニ他國ノ抑損的態度ニ俟ツヨリ他ナキモノナリ而モ三國ノ縮小案ヲ現在假協定ノ儘トシ佛國ニ十七萬千噸ノ海軍ヲ許容ストスレハ佛國ノ比較的勢力ハ上述ノ比率ニ對シ非常ノ増進ヲ見ルヘキモノト云ハサルヲ得ス

佛國側ノ主張ニヨレハ佛國ハ千九百十五年既ニ海軍休日ニ入レルヲ以テ十年ノ期限ハ千九百二十五年ニ終了シ、從ツテ千九百二十六年乃至二十七年ヨリ代艦建造ニ從ハントノ由ナルモ佛國ノ等級前艦建造日別ハ千九百十三年二隻千九百十四年二隻千九百十五年二隻千九百十六年一隻ニシテ老廢期二十年トシテ見レハ正當ナル代艦建造期ハ千九百三十三年ニシテ千九百二十六年ニアラス、若シ等級前艦ヲ之ニ加フルモ代艦建造期ハ千九百三十一年ナルヘキ筈ナリ

歐洲ハ今ヤ困難ナル經濟狀態ニアリ。米國ノ海軍縮小案ハ單ニ右ノ恢復方法ヲ發見セントスルモノニ過キサリナリ、伊國ニ就テハ「アクトン」中將ハ單ニ現勢ヲ陳述セルニ止マリ確定案ヲ提出セルモノニアラサルヲ以テ尙此點ニ關スル伊國側ノ陳述ヲ聽カムト欲ス

エシヤンツ

○「エシヤンツ」(伊)

伊國ハ議長ノ所說ニ全然賛成スルモノニシテ戰爭防止及人道擁護ノ爲大海軍國ノ間ニ成立スヘキ協定ニ對シテハ佛伊海軍ノ均勢原則ニ反セサル限り伊國ニ於テハ何等要求ムル所ナシ

ドッボン

○「ドッボン」中將 (佛)

議長ノ陳述ヲ聽クニ及ンテ海軍制限ニ關スル根本原則ニ就キ米佛ノ間ニ根本的ニ意見ノ相違アルヲ明ニセリ、前回會議ニ於テ陳述セル如ク米國提案ハ佛國限りニ於テハ全然實行不能ナルモノナリ今右案適用ノ結果ヲ佛國ニ就テ見ルニ三大海軍國中英國ハ從來他國ノ比肩スヘカラサル大海軍ヲ有セシニ對シ米日兩國ハ戰前及戰時中ニ於テ大擴張ヲ遂ケタルモノナル處右三大國海軍ヲ基礎トシテ軍備縮少ヲ議シ、之ヲ佛國ノ如キステニ大削減ヲ成シタル國ニ適用スルハ寧ロソノ

海軍力ヲ零ニ歸セシムルモノナリ、如之右三國ノ議定セル十七萬五千噸案ハ佛國ニ關係ナク決定サレタルモノナル處右ノ十七萬五千噸ハ四隻ノ軍艦ニ充當シ得ルニ過キサリモノニシテ四隻ハ何等艦隊の價值ナキモノナリ議長ハ會議ニ於ケル協調ノ精神ヲ云爲セラルルモ、戰時中佛國ハ聯合國ノ協調ノ爲ソノ海軍ノ大削減ヲ試ミタルモノニシテ今ヤソノ貢獻ノ代償トシテ正當率以下ノ海軍ヲ許與サルルトハ如何ニモ不可解ノ理ナリ佛國ノ海軍ヲ要求スルハ何等他國ニ對シテ敵意ヲ懷クカ故ニアラスシテ實ニ世界第二ノ殖民國トシテソノ海軍ヲ要求スルモノナリ、米國ハソノ海岸線ノ延長ト物資ノ豊富トヲ基礎トシテ實際上何等之ヲ害シ得ヘキ國ナキニ拘ラス世界第一ノ海軍ヲ有ス、米國ニシテ海軍ヲ有スル以上佛國カ一艦隊竝ニ之カ代艦ヲ要求スルハ何等不可思議ナル事實ニアラス

今ヤ佛國ノ有スル最近ノ主力艦ハ何等戰爭ノ經驗ニ基ク變更ヲ加ヘタルモノニアラスシテコノ軍艦ノ噸數ヲ根據トシテ將來ノ勢力ヲ論スルノ非理ナルハ明ナリ

本會議ハ單ニ五國ヲ起點トシテソノ海軍ノ制限ヲ議スルモ會議以外ニ考慮セサルヘカラサル點アリ、若シ五國カ協同スルニアラサレハ右ノ中一國ト雖モ獨力ヲ以テ平和ヲ維持シ得ヘキ見込ナシ、若シ然リトセハ海軍協調國中ヨリ佛國ノ海軍ヲ失フハ果シテ得策ナリヤ否ヤ

議長ハソノ提出セル數字ノ理由ヲ説明サレタルモ右ノ數字ハ之ヲ佛國ニ適用スルコト全然不可能ナリ前等級艦ニ對シテ代艦ヲ許ササルノ原則ハ大海軍國ニ對シテハ實行可能ナルヘキモ佛國ノ如キニハ決シテ適用サルヘカラサル所ニ屬ス千九百三十一年ニ老朽トナルヘキ等級艦ノ代艦建造ニ就キ千九百二十八年ニ於テ建造開始ヲ要求セルハ佛國ノ造船所及財政狀態ニ於テハ三隻ノ建造ヲ同時ニ開始スルコト不可能ナル事情アレハナリ

○議長 (米)

「ドッボン」中將ハ十七萬五千噸ニテハ單ニ四隻ヲ許容シ得ルニ過キスト述ヘラレタルカ四隻ハ五隻ノ誤ナラン、陸奥級ノ軍艦ニテモ右ノ範圍内ニ於テ優ニ五隻ヲ建造シ得佛國ノ現ニ保有セル軍艦ニ就テ言ヘハ五隻合計噸數十六萬五千噸ニ

シテ尙一萬噸ノ餘裕ヲ有スルモノナリ

バルフォア (英)

「ドッボン」中將ノ所說中誤謬ナリト思考セラルル點三ヲ舉クレハ

第一、議長ノ指摘セル通り米國案十七萬五千噸ハ四隻ニアラスシテ五隻ノ主力艦ヲ意味ス

第二、佛國ノ對他國海軍比率ニ就テハ、佛國ハ戰爭ノ爲比率ヲ低下セル様ニ言ハレタルモ、千九百十四年ニ於テ英國海軍ニ對スル比率ハ三對一ニシテ、右ハ米國提案ト同一ナリ

第三、「ドッボン」中將ハ米國案ハ佛國海軍ヲ艦隊編成不能ニ陥ラシムルモノナリト言ハレタルモ英國海軍専門家ノ意見ヲ綜合スルニ有力ナル一艦隊ヲ編成スルニハ四隻ヲ以テ充分ナリトス戰時中米國艦隊ハ常ニ四隻ヲ以テ成リ、英國地中海艦隊モ亦四隻ヲ以テ成ル

却說論議ノ中心點ニ立入ツテ論センニ本會議ニ於テハ一國ノ態度ハ直チニ他國ニ影響スルモノナリ、日英兩國ハ米國ノ制限ノ例ニ倣フテ海軍ヲ制限セルモノナル處若シ佛國カ米國案即十七萬五千噸以上ヲ要求スル時ハ伊國亦其例ニ倣フヤ必セリ次ニ米國日本モ亦其假協定案ヲ變更セサルヘカラス

右ノ如キハ比率ニ變更ヲ加フルモノニアラスシテ單ニ噸數ノ數字ヲ増スニ過キサルモノナリ

中將ハ會議外ニ於ケル他國ノ脅威ヲ云爲セラルル處アリタルモカカル想定國トハ何國ヲ意味スルカ恐ラクハ獨逸又ハ露國ヲ想定セラルルナラムモ、現今ニ於テハコノ危險毫モアルナシ萬一斯ノ如キ事態發生スルコトアラハソノ事態ノ發生セル時ニ至ツテ始メテ本協定ニ變更ヲ附スルモ可ナラサルカ現在ニ於テハ困難ハ會議外ニアラスシテ會議内ニアリ英國ノ希望スル所ハ佛國カ現案ヲ目スルニ佛國海軍ノ全滅ヲ目的トスルモノト解セサラムコトナリ、斯ノ如ク解スルハ會議ノ全體ヲ覆スモノニシテ惹イテハ全世界ノ自殺的海軍競爭從ツテ經濟的破壊ヲ惹起スルモノト云ハサルヘカラス

第三項 第三回十五人委員會(十二月十七日午前)

○サロー (佛)

第三回十五人委員會
佛國ノ政治的立場

海軍ノ技術的方面ノ論辯ハ「ドッボン」中將ニ譲リ主トシテ道義的政治的方面ニ付テ述ヘンニ第一「ヒューズ」氏及「バルフォア」氏ノ佛國ヲ以テ海軍協定ヲ破壊セントスルモノナリトナスニ對シテハ一言ナカルヘカラス、若シ果シテ然リトセハ佛國ハ平和ト人道トニ基ク大事業ヲ抑止スルノ責任ヲ負ハサルヘカラサレハナリ

佛國カ海軍制限問題ノ議ニ參スルヲ得タルハ最近二日以来ノコトニ屬ス、其際佛國ハ三大國間ノ假協定ノ成立ヲ祝スルト共ニ五大國間ノ確定協定ニ加入スルハ希望ニ堪ヘサル處ナル旨ハ明カニスル所アリシカ之ト同時ニ最初ヨリ佛國カ其議ニ參加シ得サリシハ遺憾ノ極トナササルヲ得ス三大國ニ於テハ過去五週間ニ互リ本問題ニツキテ審議研究シ本國政府ニ請訓スルヲ得タルニ拘ラス佛國ニ於テハ全然ソノ議ヨリ除外サレタリ「ヒューズ」氏ハコノ事實ヲ佛國ノ獨特ナル地位ニ歸シ同一ノ規律ヲ以テ律シ難キ點アルカ故ナリトナサレタルモ、予ハ「ドッボン」中將ノ如キ人カ其議ニ參加シ得タリトセハ海軍制限問題ノ基礎トシテ採用スヘキ原則ニ付キテ有用ナル獻言ヲナシ得タルナルヘシト信スルモノナリ、中將ハ佛國ノ如キ國ニ對シテハ海軍現勢力ヲ基本トシテ海軍制限ヲ論スルノ根本的誤謬ニシテ非實行の且ツ不公平ナル所以ヲ陳述セリ然ルニ今ヤ佛國ヲ除外シテ議定セラレタル規律ヲ佛國ニ無理ニ採用セシメントシツツアリ彼等ハ單ニ噸數ヲ指示シテ之ニ對シ賛成力不賛成力ヲ決セヨ、コレヲ拒ムハ會議ヲ破壊スルモノナリト斷言シ而モ本國政府ニ請訓審議スヘキ五日間ノ時日サヘモ佛國ニ假スコトナシ茲ニ於テ佛國ハ之ヲ容レンカ佛國海軍ノ破滅ヲ來スヘク之ヲ拒マンカ平和人道ノ大業ノ破壊ヲ企ツルモノトナルノ困難ナル立場ニ立ツニ至レリ

予ハ一國ノ政治家トシテ政治家タル諸氏ニ告ケント欲ス、政治ハ輿論ニ對シテ責任ヲ有スルモノナリ、佛國國民ハ二ツノ責任ヲ自覺ス、一ハ世界ノ平和秩序安寧ニ對スル責任ニシテ二ハ自國ノ利害ニ關スル責任ナリ

佛國ハ自國ノ利害ニ關シテ海軍ヲ要スルコト他ノ三國ニ劣ルヘキヤ、モトヨリ四隻ト雖モ一艦隊ヲ編成シ得サルコトナカルヘシ然レトモ右ハ佛國ノ立國ニ關スル輿論ノ要求ニ應ジ得ヘキカ佛國ハ太平洋、印度洋、大西洋ニ互リテ面積一千

海軍制限問題ヲ議スルニ當リ最初佛伊兩國ヲ除外シテ日英米三國限リニテ協定ヲ遂クル所アリタル事實ヲ捉ヘテ、之ヲ目スルニ欺僞ヲ以テセルハ米國ノ遺憾トスル所ナリ何トナレハ此措置ハ良心ヲ以テ佛國ノ爲ヲ思ヒテナシタル處ナレハナリ

十七萬五千噸ノ制限ヲ以テ佛國海軍ノ全滅ナリトナスハ非理ノ甚シキモノナリ、會議ハ事實ヲ基礎トスルニ非サレハ發展スルコトヲ得ス若シ七隻ノ軍艦全部ノ廢棄ヲ迫ルナラハ全滅ナリト稱スルヲ得ヘケンモ、事實ハ七隻以上ノ噸數ヲ佛國ニ許セルモノナリ

英米一國ニ對シテハ努級前艦ヲ除クモ主力艦ノ四割以上ノ廢棄ヲ要求セルニ拘ラス佛國ニ對シテハ努級艦一隻ノ廢棄ヲモ迫ルコトナシ、コレ佛國海軍ノ全滅ニアラスシテ四割ノ利ニアラスヤ

佛國ノ利益ニ對シ軍國主義又ハ帝國主義程有害ナルハナシ大軍備ヲ持シ同時ニ經濟的發展ヲ策スルノ不可能ナルハ經濟學ノ説明スルトコロナリ問題ハ要スルニ佛國ノ精力ノ浪費ヲ避クルニアリ、之ヲ以テ佛國ノ軍備ノ縮少ヲ議スルハ目下

ノ佛國ノ困難ナル地位ヲ利用スルモノニアラスシテ、却ツテ佛國ヲ援助スルノ所以ナリ

佛國ハ何故ニ海軍ヲ要求スルカ獨逸ノ再興ナルカ或ハ露國ノ脅威ナルカ萬一之等ノ事態發生スルコトアラハ之ニ處スルノ道ハ多シ唯現下ノ狀態ニ於テ佛國カ數千弗ノ金ヲ主力艦ノ建造ノ爲ニ費スカ如キハ誠ニ世界ニ對スル大打撃ニシテ斯ノ如キハ獨リ軍備制限ニ關スル問題ニ在ラスシテ經濟的破滅カ否カノ問題ナリ今ヤ勞働ト經濟以外ニハ世界ヲ救フ力ナシ從ツテ佛國カ目下ソノ平和的產業ニ精力ヲ集中シツツアルハ米國ノ佛國ヲ尊敬スル所以ナリ、佛國ハ知ラスヤ今ヤ世界ノ輿論ハ軍艦ノ建造ニ反對シツツアリ

既ニ全權委員トシテハ其抱懷スル所ノ全部ヲ開陳セルヲ以テ今ハ唯本國政府ノ訓令ヲ待ツノ他ナシ

第四項 第四回十五人委員會(十二月二十日午前)

○議長「ヒューズ」

佛國首相「ブリアン」氏ノ本會議ニ對スル關係ニ鑑ミ予ハ議長トシテノ職責上十二月十六日直接ニ私信ヲ以テ次ノ如ク「ブリアン」氏ニ申送ル所アリタリ

「日英米三國間ニ於テハ佛伊兩國ノ之ニ適應スヘキ協定加入ヲ條件トシテ主力艦ニ關スル假定ヲ成立セシメタル所伊國ハ既ニ佛國海軍ノ均勢ヲ條件トシテ之ヲ受諾セルヲ以テ現下ニ於テハ確定協定ノ成立ハ一ニ繫ツテ佛國ノ態度如何ニアリ三國協定ノ基礎トシテハ國家保全ノ必要又ハ要求ニ關スル論議ヲ避ケ主トシテ海軍ノ現勢ヲ採レリ而シテ三國間ニ於テハ弩級前艦ハ一切之ヲ廢棄シ之ニ對スル代艦ヲ要求スルコトナク更ニ弩級艦及超弩級艦ニ對シテモ四割ノ縮少ヲ行ヘリ若シ佛國ニ對シテ之ト同比率ノ縮小ヲ要求スルトキハ現在七隻十六萬五千噸ニ對シ十萬二千噸トナル勘定トナルモ吾人ハ佛國ノ特殊ナル事情ニ鑑ミ強テ之ヲ要求セス、之ニ七萬噸以上ヲ加ヘテ十七萬五千噸ヲ提議セリ右ハ實ニ現勢十六萬四千噸ヲ超過スルモノナリ佛國ニ於テ之以上ヲ要求スルハ全然不可能ノ議ニシテ若シ佛國ニシテ右案ヲ拒マンカ英

米兩國ハ忽ニシテ百萬噸以上ノ海軍ヲ有スルコトナリソノ比率ハ六對一以上ニ上ルヤ必セリ實ニ右案ハ比率上佛國ニトリテ有利ナルコト二倍ナリト稱セサルヘカラス、佛國ノ要求セル十隻三十五萬噸ノ如キハ殆ント問題外ニシテ佛國ニシテカカル案ヲ支持センカ既ニ陸軍ノ爲メ大負擔ヲ有スル佛國カ更ニ海軍ノ爲メ如斯キ大支出ヲナスヲ見テハ吾人ハ經濟上佛國ヲ援助スルヲ躊躇セサルヲ得サルモノナリ」

右ニ對シ佛國首相ヨリ十八日次ノ如キ返信ニ接セリ

ブリアン
ノ返信

「佛國政府ハ佛國ノ根本ノ利益ニ反セサル限り會議ノ成功ニ對シテハ全力ヲ盡サント欲スルモノナリ元來海軍問題ニ關スル佛國ノ態度ハ純然タル防禦の見地ニ立ツモノニシテ攻撃的ニアラス從ツテ其性質カ攻撃的ニシテ加之其建造ニ莫大ナル費用ヲ要スル主力艦ノ噸數ニ關シテハ既ニ佛國全權ニ對シ貴下ノ希望ニ副フヘキ意味ノ訓令ヲ發シタリ但防禦的艦隊(輕巡洋艦(light cruiser))水雷艇(torpedo boat)及潛水艦ニ關シテハ主力艦ニ就テ受諾セルカ如キ縮少ヲ受諾スルコト能ハス此點ハ明白ニ留保セサルヲ得サルモノナリ何トナレハ右ハ佛國ノ海岸線ニ延長及遠距離ニ散在スル茫大ナル殖民地ノ存在カ之ヲ強要スルモノナレハナリ」

予ハ右ノ回答ニ接シ茲ニ満足ノ意ヲ表セムト欲ス何トナレハ右ハ補助艦ニ關スル留保ヲ條件トシテ米國ノ十七萬五千噸案ニ同意スルモノト解スレハナリ

サロー

○サロー(佛)

「ブリアン」首相ヨリ佛國全權カ訓令ニ接シタルハ事實ナリト雖右書翰ニ關スル唯今ノ議長ノ所言ノ如キハ甚タ皮相的ナルモノト考フ右ノ訓令ニ基ク佛國ノ實際的具體案ニ付テハ「ドッボン」將軍之ヲ説明スヘシ

○「ドッボン」中將(佛)

佛國ハ其海軍ノ現勢ヲ陳述スルニ當リ實際案ヲ具シテ本委員會ニ對シ其審議ヲ乞フ所アリタリ然ルニ佛國案ト米國案トノ間ニハ計算ノ出發點ニ於テ根本的ノ相異有リシ爲メ討論多岐ニ互ルト雖遂ニ調停ノ餘地ナキニ立到レリ

佛國ハ最初十隻案ヲ提議シ、加之右十隻ヲ要求スト雖一九三一年以前ニ何等新艦ヲ建造セントスルモノニアラス單ニ現在軍艦カ老廢期ニ入レル際ソノ代艦トシテ之ヲ要求スルモノナル旨説明セルニモ拘ラス右案ハ委員會ノ容ルル所トナラス之カ對案トシテ等級前艦ハ計算外トシテソノ現存七舊戰艦ニ對シテハ單ニ五隻代艦ヲ許容スヘシトノ提議ヲ突附ケラレタリ

茲ニ於テ佛國ハ上述ノ十隻案ヲ撤回シテ新ニ六隻案ヲ提出シ更ニ代換期ニ關シテハ前會議ニ於テ續述セル如キ例外ヲ要求セムト欲スルモノナリ

佛國海軍ハ前述ノ如ク一九三三年ニ二艦、一九三四年ニ二艦、一九三五年ニ二艦、一九三六年ニ一艦廢艦トナルモノニシテ之カ代艦ヲ其期日迄ニ完成スル爲メニハ千九百二十七年ヨリ代艦ノ建造ヲ開始セサルヘカラサルハ之亦上述セル通りナリ右ハ一見休暇ノ期限ニ牴觸スルカ如シト雖、佛國ニ於テハ千九百十五年ヨリ既ニソノ海軍休暇ヲ實行セルヲ以テ該期日ハ千九百二十五年ニ終了スルモノナルコトヲ考慮セラレムコトヲ求ム何トナレハ開戰以來列強ハ盛ニソノ海軍力ヲ増加シ例ヘハ米國ハ四割八分日本ハ二割六分ノ海軍擴張ヲ斷行セルニ對シ佛國ハ何等ソノ海軍力ヲ増加スル所ナカリシヲ以テナリ、加フルニ海軍休暇期間ハ絕對的ノモノニアラスシテ例ヘハ米國ハ目下建造中ノ二艦ヲ英國ハ新艦二隻ヲソノ休暇中ニ於テ建造スルヲ得ルノ例外ヲ認メラレタルモノナレハ佛國ニ對スル上述ノ如キ例外ハ何等異例ヲ以テ之ヲ稱スルヲ得サルモノナリ

次ニ海軍ニハ一艦隊編成ニ對スル技術上ノ單位カ絕對的ニ定マレルモノナリ佛國ハ先ニ十隻案ヲ提出シ、更ニ之ヲ八隻案ニ更メタルモ尙委員會ノ容ルル所トナラス却ツテ五隻案ヲ提出サルニ至レルヲ以テ茲ニ最後ニ六隻案ヲ提出スルノ止ムヲ得サルニ至レリ六隻ノ軍艦ハ佛國艦隊編成上ノ最小限度ニシテ右ハ掛引ニアラスシテ絕對的必要ナリ坊間佛國カ大海軍ヲ要求スルモノナルカ如キ風説ヲ聽クモ佛國ノ要求スル所ハ一九三一年迄ニ於テハ單ニ英國ノ二割八分ニ過キスシテ其三割四分ニ當ラス一九三一年以後ハ代艦ノ建造ニ依リ稍其割合ヲ漸増スト雖一九三五年第五隻ノ建造ヲ終ル際ニ

於テモ英國海軍ニ對シテハ單ニ其四割ヲ有シ得ルニスキサルモノニシテ英國ノ二國標準政策ハ決シテ破壞サルルコトナキモノナリ

佛國ノ海軍會議希望

元來海軍競争ノ觀念ヲ本委員會ニ輸入セシモノハ佛國ニアラサルノ事實ハ之ヲ了知セラレムコトヲ望ム佛國ノ希望スル所ハモトヨリ人民ノ負擔輕減ノ爲メニ其軍備ヲ國防上ノ最小限度ニ縮小セムトスルニアリ然リト雖佛國ハ斯ノ如キ大削減ヲ受諾セル以上其受諾セル縮小案ノ結果トシテ生セル事態ヲ再審スルコトハ自國ノ責任ナルヲ以テ、十年後ニ於テ再ヒソノ海軍力ヲ審査シ再ヒ海軍ニ關スル全問題ヲ審議スル爲會議ヲ招集サルヘキコトヲ希望スルモノナリ、尙佛國全權ノ受ケタル訓令ニ依レハ主力艦ニ關スル協定ノ確定ハ必ス海軍問題全部終了ノ時ニ於テナスヘキモノニシテ佛國ハ之ヲ主要條件トシ決シテ其以前ニ於テ確定スル能ハサルモノナルコト了知セラレンコトヲ望ム

「ヒューズ」

○議長（米）

余ノ了解スル所ニ依レハ「ドッボン」中將ノ所說ハ次ノ四點ニ盡クルカ如シ

佛國要求ノ要領

- (一)主力艦五隻ノ代リニ六隻ヲ要求スルコト——右ハ「ブリアン」氏ノ訓令ノ趣旨ヲ超過スルモノナリ
- (二)主力艦代艦ニ關シ佛國ノ特別事情ヲ顧慮シテ千九百二十七年ヨリ建造ヲ開始セントスルコト
- (三)會議ノ再開催(例ヘハ十年後ニ)ノコト——予ハ若シ幸ニシテ本會議ニ於テ協定ヲ得ハ今少シ早ク例ヘハ七年後ニ會議ヲ開クモ可ナリト信ス但右ノ會議ヲ開催スルコトヲ以テ直チニ本協定ノ有効期間ヲ十年限トナスモノト看做スコトヲ得ス蓋シ斯ノ如キ觀念ハ本協定ヲ無効ニ歸セシムルモノナレハナリ、サレハ第二回會議開催ノ件ハ本協定ノ有効期間ト別問題トシテ考察スヘシ

(四)海軍問題全部ヲ議了スルニアラサレハ主力艦問題ヲ確定シ能ハサルコト——右ハ補助艦問題ヨリ分離シテ主力艦問題ヲ決定シ難シトノ意味ト承知ス。之レ「ブリアン」氏ノ留保ト符合スルモノニシテ予ハ右ニ就キ佛國ノ補助艦ニ關スル意見ヲ聽取セムコトヲ望ム蓋シ佛國カ主力艦問題ニ付補助艦案ヲ條件トスル以上佛國ノ補助艦案ヲ審議スルコトナ

クシテ主力艦問題ノ審議ヲ終了スルコト能ハサレハナリ

バルフォア

○バルフォア（英）

會議再開催ノ件ニ關シテハ、本休暇期間内ニ於テ現在豫見シ得ヘカラサル政治上科學上ノ變化アルヘキヤモ計ラレス從テ本會議ノ議定ニ變更ヲ加フルヲ要スルヤモ計ラレサルヲ以テ予モ亦之ニ贊スルモノナリ但議長ノ指摘セラレタルカ如ク右ハ本協定カ十年後ニ終了スルモノトナスモノニアラスシテ單ニ該新問題ヲ議セントスルモノナルコト注意ヲ要ス、而シテ右ノ提案ニ付テハ本會議ノ一時一事主義ニ鑑ミ別個ノ問題トシテ議長ニ於テ實際案ヲ作成提出サレンコトヲ望ム

次ニ「ブリアン」氏ノ來翰ニ依レハ氏ハ補助艦ニ關スル留保ヲ條件トシテ主力艦ニ關スル米國案ヲ受諾セル處、右ノ條件ハ日英兩國トモ留保セルモノニシテ右ニ付異存ナキモ佛國全權ノ所說ハ之ト異ナリ噸數増加及一九二七年代艦建造開始ヲ主張ス、然ルニ「ブリアン」氏來翰ハ佛國ノ一九一五年休暇開始說ヲ主張スルコトナク且又十七萬五千噸案ヲモ受諾セルモノト認ムコレ「ブリアン」氏ノ確答ナレハ此點ヲ明確ニセラレムコトヲ望ム

「ヒューズ」

○議長（米）

元來本問題ハ始メ五國全權全部出席セル軍備制限委員會ニ於テ討論セシカ第一回總委員會ニ於テ特別専門上ノ論議アルヘキヲ認メ分科委員會ニ之ヲ移スコトヲ議シ更ニ技術問題ト政治問題トハ互ニ關聯スルモノナルヲ以テ茲ニ全權ト専門家トヨリナル本十五人委員會ノ成立ヲ見タル次第ナリ然ルニ委員會ノ今日迄ノ經過ニ鑑ミルニ、之ヲ總委員會ニ於テ議スヘカラサルノ理ヲ發見スルヲ得ス、如何ナル特殊ナル技術問題ト雖斯ノ如キ重大問題ニ關聯スル以上全權委員全部ノ聽取ヲ值セサルモノナシ、之ヲ以テ本日午後ヨリ本問題ヲ總委員會ニ移シ同時ニ海軍專門科ノ携同ヲ許スコトトシテハ如何

尙補助艦ト主力艦トノ關係ニ關スル佛國代表者ノ意見ヲ聽取致度シ

「サロー」 (佛)

議事ヲ總委員會ニ移スコトニ就テハ異議ナシ、本問題ノ如キ重大問題ニ就テハ平等ノ責任ヲ有スル全權ハ全部其ノ議ニ參加セサルヘカラサレハナリ但シ佛國全權ニ於テハ準備ノ都合上本日午後直チニ本問題ノ審議ヲ繼續スルコトハ難シトスルトコロナリ

「ヒューズ」
○議長 (米)

開催期日ハ延期スルモ差支ナシ

サロー (佛)

尙「ブリアン」氏來翰ノ趣ハ余モ亦之ヲ了知ス全權宛ノ訓令モ亦同趣旨ナルモ右ヲ單ニ十七萬五千噸案ノ受諾ト見ルハ過テリ、議長宛來翰ニモ全權宛訓令ニモ右ノ如キヲ明確ニ斷言セル所毫無ナシ「ドゥボン」將軍ノ所言ハ右ノ訓令ヲ専門的實際案ニ書直セルモノニ過キス

「シヤンツエ」 (伊)

「ブリアン」氏ト佛國全權トノ間ニ存スル意見ノ差異ヲ明確ニセラレムコトヲ望ム蓋シ全權宛ノ訓令ニ依レハ主力艦ニ關スル米國案ノ受諾ハ絶對的ナラサルカ如ケレハナリ

サロー (佛)

否、議長宛書翰モ訓令モ同趣旨ニシテ兩者トモ確定噸數ヲ形式的ニ受諾スルコトナク單ニ米國案ノ方向ニ向フヘシトノ「ブリアン」氏ノ意見ヲ開陳セルニ過キス「ブリアン」氏ト全權トノ間ニ意見ノ相異決シテナシ

「シヤンツエ」 (伊)

「ブリアン」氏書翰ノ趣旨ハ確定噸數ノ受諾ヲ意味スルコトハ本委員會一般ノ解釋ナリ、之ヲ以テ右ノ點ニ關スル佛國全權トノ間ノ意見ノ差異ヲ明確ニスルノ必要アリト信ス

「ドゥボン」中將 (佛)

補助艦問題ニ付テハ全然同感ニシテ右カ主力艦ニ關聯スル以上其討議ヲナスノ必要アリ

「ヒューズ」
○議長 (米)

佛國全權ハ十七萬五千噸案ヲ受諾スルモ可ナリトノ趣旨ヲ受ケタルコトハ否定セサルモ佛國ニ對シテ單ニ五隻ノミノ主力艦ヲ許容スルニスキナルニ於テハ本會議ハ過去三年間ノ諸國際會議ノ轍ヲ履ミ過ヲナスモノナリ

新聞公開問題ニ關シ一言セムニ予ハ「ブリアン」氏ニ直接交渉シ氏ヨリ上述ノ如キ満足スヘキ回答ヲ得タリ然リト雖來翰ノ趣ハ未タ公表セサル處ニ屬ス尙在倫敦米國大使ヨリ「ブリアン」氏カ十七萬五千噸案ヲ受諾セリトノ趣ヲ聞知セリトノ報告ヲ齎セリ右ニ依レハ「ブリアン」氏ニ於テ誤解セラレ居ル所ナシト解セラル此際本來翰ヲ祕密ニ附スルハ「ブリアン」氏ノ行動ヲ誤解セシムルモノナリト信セララルカ故ニ之ヲ公表シテハ如何

サロー (佛)

本件發表ニ付テハ佛國全權ニ於テ異議ナシ但右書翰ノ趣ハ(一)佛國代表ハ「ヒューズ」氏ノ希望ニ副フヘシトノ意ナルコト並(二)補助艦ニ關シ形式的ニ留保スヘシトノ趣旨ヲ明確ニセラレムコトヲ望ム

○議長 (米)

書翰公表ノ件ヲ決シ尙總委員會ハ翌日午前十一時ニ開クコトヲ宣ス

第二款 總委員會ニ於ケル討議

第一項 第四回軍備制限總委員會

第四回軍
備制限委
員會

佛國及伊太利ノ海軍軍備制限問題ハ十五人委員會ニ引續キ第四回以降ノ總委員會ニ於テ審議セラルルコトナリタルカ

十二月二十二日午前ノ第四回軍備制限委員會ニ於テ

一、議長「ヒューズ」ハ先ツ從來ノ經過ヲ説明シテ曰ク第一回軍備制限總委員會ニ於テ米國ノ提案並之ト關聯アル其ノ他ノ諸問題ヲ審議スル爲専門家ヨリ組織セラルル分科委員會設置セラレシカ該委員會ハ討議ヲ進メ之ニ續イテ米國、英國及日本ノ三國全權間ニ主力艦ノ制限ニ關シ意見ノ交換アリ三國間ニ主力艦ニ關シ佛國及伊太利ノ參加ヲ待テ確定スヘキ暫定の協定成立セリ

爰ニ於テ從來ノ海軍専門家ノミヨリ構成サレシ委員會ヲ擴張シ新ニ十五人委員會ヲ組織シテ専門家ノ意見ト政治家ノ意見トヲ更ニ密接ナラシムルコトヲ計リタリ

十五人委員會第一回會議ニ於テ米國英國及日本ノ三全權間ニ成立セル協定ヲ宣言スルヲ得タルハ喜トスル所ナリ海軍軍備制限十五人委員會ニ於テ佛國並伊國ニ對スル主力艦噸數ノ問題ノ審議ヲ進メタル處「ドゥボン」ハ佛國政府ヲ代表シテ三十五萬噸ノ主力艦ヲ建造スルコトヲ許サレムコトヲ主張シタルヲ以テ爰ニ論爭ヲ見タリ惟フニ

現在佛國ノ第一線ニ使用スヘキ主力艦ハ七隻ニシテ合計十六萬四千噸ニ過キス之ニ三隻ノ前弩級艦ヲ加フルモ約二十二萬一千噸ニ過キス他ノ諸國政府ハ代艦ナクシテ前弩級艦ヲ廢棄スルノミナラス更ニ前弩級艦以外ノ主力艦ニ於テ其ノ四〇「バーセント」ヲ廢棄スルコトニ同意ス若シ佛國ニ同様ノ縮少ヲ行ヘハ約十萬二千噸トナル然ルニ佛國ニ斯クノ如キ縮少ヲ要求スルハ妥當ナラスト認メ三隻ノ前弩級艦ヲモ含ミ十隻ノ軍艦ヲ保有スルコトヲ許シ唯代艦建造合計噸數ヲ十七萬五千噸以下ナラシメムコトヲ要求スルノミナレハ佛國ノ爲ニ甚タ有利ナル案ト云ハサルヘカラス

伊太利ハ佛國ト同等ノ海軍力ヲ維持セムコトヲ陳述シ佛國ト同様ニ適用アル限リ十七萬五千噸ノ制限ヲ受諾セムトスルモノナレハ佛國ノ態度如何ニ依リテ協定ハ成立ニ至ルナリ

然ルニ「ドゥボン」中將ハ佛國ハ十隻ヲ必要トスト述ヘテ三十五萬噸ヲ要求シタルノミナラス其船渠ノ狀態ト數

年間建造ヲ行ハサリシコトヲ理由トシテ佛國ノ爲ニ代換期ヲ早メムコトヲ要求セリ余ハ議長トシテノ責任ヲ思ヒ又「ブリアン」氏カ會議ノ初期ニ親シク出席シ其成行ヲ希望セラレシヲ思ヒ氏ニ書簡ヲ送リテ其配慮ヲ求メ回答ヲ得タリ

此回答ハ要スルニ佛國ハ主力艦問題ニ於テハ補助艦ニ於ケルカ如ク其主張ヲ固執セス制限ヲ受諾スレトモ補助艦ニ付テハ主力艦ニ於ケルカ如キ比率ニ從フ縮少ヲ受諾シ難シトスルモノナリ(第一款第四項參照)

然ルニ「ドゥボン」中將ハ猶十七萬五千噸ニテハ主力艦五隻ヲ建造シ得ルニ過キス艦隊ハ少クトモ六隻ニテ編入セラルルコトヲ要スルヲ以テ此提案ニ從ヒ難シ又主力艦ニ關スル協定ハ補助艦並潛水艦ニ關シ満足ナル協定ノ成ルヲ條件トシテ受諾セラルヘキモノナリ代換計畫ニ付テモ一千九百二十七年ヨリ佛國カ代換シ得ル如ク修正アリタシト述ヘタリ「ブリアン」ノ回答ハ補助艦ニ付満足ナル協定ノ成立スルコトヲ條件トシテ主力艦ノ噸數ヲ受諾セルモノナルカ或ハ又主力艦ノ噸數ニ付テハ之ヲ無條件ニテ受諾スト雖モ補助艦ニ關シテ從來佛國カ要求スルコトアルヘキ地位ヲ此受諾カ何等害スルモノニアラサルコトヲ完全ニ留保セルモノナルカニ付疑問ヲ生セリ余ハ後者ナリト解セリ主力艦ニ關スル協定ノ成立以前ニ補助艦ノ協定カ成立セサルヘカラストナスノ理由ナシト信スルモノナリ此點ニ付十五人委員會ハ佛國全權ノ見解ヲ充分ニ知ラムコトヲ欲セリ

十五人委員會ノ討議カ爰ニ至レハ問題ハ既ニ専門家ノミノ問題ニアラス多クノ全權カ出席セナル會議ニ於テ審議ヲ進ムルハ適當ナラスト認メタルヲ以テ全權ト共ニ海軍専門家ヲ招致セル總委員會ニ於テ論議ヲ續クルコトニ決定シ今日爰ニ此會合ヲ見タル次第ナリ佛國ヨリ希望ノ補助艦及潛水艦ノ噸數ヲ委員會ニ未タ申出テス佛國ヨリ此點ニ關シ陳述アレハ有用ナリ

將來生スヘキ科學的研究ノ進歩及政治的狀態ノ變化ハ豫見シ難シ故ニ新狀態ニ適應セシムルタメ七年乃至十年後ニ再會シ審議スルコトニセムトノ意見一般ニアリ「バルフォア」氏ハ米國政府ニ新會議ヲ招集スルコトニ關シ草案ヲ準備シ

「ヒューズ」
「ドゥボン」
ノ經過

「ブリアン」
ノ回答
ノ意義

ドゥボン

之ヲ提供セラレタシト述ヘラレシカ右申出ニ從フヘシ
 二、「ドゥボン」中將ハ

余ハ特ニ議長ノ説明ニ附加スヘキモノヲ有セサルモ分科委員會ニ出席セサリシ全權ノ爲ニ佛國要求ノ精神ヲ明ニセム
 カ爲ニ數言ヲ述ヘムト欲ストテ

(イ)「佛國ハ主力艦ノ問題ニ付先ツ英國米國竝日本ノ三國ニ適用セシ係數ヲ佛國ニ適用セサルコトヲ要求セリ米國
 英國及日本ノ現在勢力ハ擴張ノ結果ナリ佛國カ既成ノ計畫ニ基キ擴張ヲナササリシハ勿論却テ元ノ勢力ヨリモ劣勢
 トナリタル時期ニ於テ米國海軍ハ四十八「バアセント」日本海軍ハ二十六「バアセント」ノ勢力ヲ増加セリ英國モ又戰
 前獨逸ノ脅威スルニ會シ建造ヲ盛ニナセリ故ニ現在勢力ヲ基礎トセル係數ヲ佛國ニ適用スルハ正義ト公正トヲ失ス
 (ロ)佛國ハ現在十隻ノ主力艦ヲ有シ之ヲ代換セムトセリ然レトモ前弩級艦ハ計算外トスヘキヲ通告セラルルヤ直ニ
 七隻ヲ制限スヘキコトヲ承諾セリ佛國カ十隻ヲ要求スルモ直ニスヘテヲ建造スルニアラス廢棄スル艦齡ニ達シタル
 軍艦ヲ次第二代換セムトスルモノニシテ其完成ハ一千九百四十一年ニ始メテ見ルモノナリ決シテ無理ノ野心ヲ有ス
 ルニアラス前會議ニ於テ佛國全權ハ遂ニ佛國ニ僅ニ五隻ヲ與フルニ過キサル縮少ノ審議ヲナスニ同意セリ尤モ五隻
 ハ戰略上ノ一單位ヲ構成スルニ足ラス最モ弱小ノ艦隊ト雖モ六隻ヨリナルモノナルヲ以テ此點ニ付再審議ヲナスコ
 トアルノ特權ヲ留保セルモノナリ

(ハ)佛國ニシテ僅ニ五隻ヲ有スルニ過キストスレハ海軍ノ見地ヨリハ實際上武備ナキニ等シ斯ノ如キ多大ノ讓歩ハ
 會議ヲ成功セシメンカ爲ニナサレタルナリ此結果ハ佛國ヲシテ極メテ困難ナル地位ニ置キ輕巡洋艦及潛水艦ノ多數
 ヲ所有スルノ絶對的必要ヲ生セシム故ニ佛國全權ハ佛國海軍ノ將來ノ構成ハ全體ヲ一トシテ審議スヘキモノニシテ
 主力艦ト補助艦及潛水艦トヲ二部ニ分チテ審議スヘキニアラスト信ス

(ニ)佛國カ輕巡洋艦及潛水艦ニ付要求スル噸數ハ目下政府ニ照會中ナリ問題ハ極メテ重大ナレハ決定的數字ヲ提出

スル前ニ政府ノ許可ヲ得サル可カラス

(ホ)英國全權ヨリ潛水艦ヲ全廢スヘシトノ問題ノ提出アリ佛國全權ハ先ツ本問題ヨリ審議スヘキモノナリト思考ス
 蓋シ本問題ノ結果如何ハ他ノ審議ヲ困難ナラシメ或ハ又其結果ヲ無効ナラシムルコトアルモノナレハナリト述フ

三、議長「ヒューズ」氏ハ之ニ對シ誤解ヲ避クル爲一言セムトテ

「米國政府ノ提案ハ噸數ヲ定ムルノミニシテ隻數ヲ定ムルモノニアラス

主力艦ノ隻數ニ付言及スル所アルモ之ハ單ニ噸數ヨリ割出シテ述ヘタルモノニ過キス佛國竝伊太利ニ對シ十七萬五千
 噸ト云フモ隻數ヲ五隻ニ限ルニアラス一隻ノ噸數ヲ三萬五千噸トスレハ五隻トナルモ三萬五千噸ノ軍艦ヲ建造スヘシ
 トハ要求セス佛國カ六隻トスルモ七隻トスルモ之ハ自由ナリ故ニ隻數ニ關シテ問題ヲ生スルコトナシ偏ニ噸數ノ問題
 ナリト酬ヒタルカ

ドゥボン

四、「ドゥボン」中將ハ之ヲ反駁シテ

「何人モ佛國カ制限ヨリ以下ノ小ナル主力艦ヲ建造スル程愚ナルモノナリトハ信スルヲ得サルヘシ佛國カ將來主力艦
 ヲ建造スルニ當リテハ他國海軍ノ主力艦ト同等ノ勢力アルモノヲ建造スヘシ故ニ十七萬五千噸ノ割當ハ佛國ノ主力艦
 ヲ五隻ニ制限スルモノナリ五隻ヲ建造スルヤ或ハ六隻ヲ建造スルヤニ依リ總噸數ヲ變更セサルヘカラス」ト述フ

五、其後國際會議再開問題ニ移リ第四回軍備制限總委員會ヲ終ル

B、會議再開問題

會議再開
問題「ヒューズ」

一、議長「ヒューズ」從來ノ經過ヲ説明シタル後附言シテ曰ク、「將來生スルコトアルヘキ科學的研究ノ進歩及政治的狀
 態ノ變化ハ豫見シ難シ故ニ新狀態ニ適應セシムルタメ七年乃至十年位ノ後ニ會議ヲ再開シ審議スルコトニスルハ極メ
 テ妥當ナリト一般ニ認メラルル所ナリ

「バルフォア」氏ハ米國政府ニ對シ新會議招集ニ關スル草案ヲ起草シ提出スル様取計ヲハレタシト述ヘラレシカ此申出

ドッボン

ニ從フコトナレリ」ト述フ之ニ續イテ
 二、「ドッボン」中將ノ佛國ノ態度ニ關スル辯明

「リー」卿

議長「ヒューズ」ノ提案ハ隻數ヲ制限スルモノニアラストノ説明「ド、ボン」中將ノ之ニ對スル反駁アリタル後
 三、「リー」卿立チ會議再開問題ヲ論シテ

「會議再開ヲ以テ妥當トスルハ將來海軍問題ニ關シ必然專問上ノ進歩アリテ今爰ニ議定セル專問の事項ニ關スル決定ヲ或ハ無效ニ或ハ不適當ニナスカ故ナリ例ヘハ主力艦計算ノ基礎トシテ噸數ヲ採用スルコト主力艦ノ制限噸數ヲ三萬五千噸トスルコト等ヲ不可トスルニ至ルヤモ計ラレス斯クノ如キ專問の問題カ將來開カルル會議ニ於テ審議セラルヘキモノト思考ス」

ト述フ

「シャンツ」

四、「シャンツ」ハ

「七年後ニ會議ヲ再會セラルルニ付伊太利ハ勿論贊成スルモノナリ然レトモ爰ニ締約國ノ或一國カ七年ノ完了以前ニ於テモ會議ノ招集ヲ請求シ得ヘキ餘地ヲ協定中ニ存シ置カレムコトヲ提議ス科學上ノ變化ト共ニ政治上ノ變化モ亦生スヘシ

獨逸ハ「ヴェルサイユ」條約ノ制限ヲ受クルヲ以テ恐ルルニ足ラサルモ露西亞ノ前途ハ窺知シ難シ」ト述フ

「バルフォア」

五、「バルフォア」之ニ次テ立チ

「國際會議再開問題ニ付テハ米國ノ草案ヲ提出スルマテ待ツヲ適當ト信ス余ハ七年後トナスヨリモ八年後トナサムコトヲ欲ス」ト述ヘ本問題ハ後日審議セラルルコトナレリ

第二項 第九回軍備制限總委員會

一、第五回ヨリ第八回ニ到ル總委員會ニ於テハ主トシテ潛水艦問題討議セラレ主力艦ニ關シテハ何等議論ヲ見ス

第九回總
委員會
佛國ヲ確
定的承認

第九回軍備制限總委員會（一千九百二十一年十二月二十八日午前十一時）開カルルヤ佛國全權「サロー」(Sarrault)先ツ立ツテ「ステートメント」ヲ朗讀シ政府ノ訓令ヲ仰キタル處内閣及國防最高會議ニ於テ慎重ナル審議ノ結果本會議ノ成功ノ爲メニ主力艦ニ關シテハ提案ヲ受諾スルニ決セリトテ

(イ) 主力艦十七萬五千噸ヲ以テシテハ戰略上有力ナル艦隊ヲ編成スルコト能ハサルモノナルモ會議ノ目的ヲ達成セシムル爲提案ニ從フコトニ決心ス

(ロ) 佛國ハ一九二七年ニ艦齡二十年ニ達スルモノアルヲ以テ該年度ヨリ起工ヲ許サルルコトニ海軍休日案ニハ修正アリ度シ

(ハ) 海軍軍備制限條約ノ有効期間ニ付テハ追テ審議シ決定アルヘシト述ヘタル後潛水艦及補助艦ニ付テハ提案ニ從ヒ難キ旨ヲ述ヘタリ

二、「ヒューズ」(Hughes)「バルフォア」(Balfour)「シャンツ」(Schauzer)及埴原ノ各全權ハ就レモ佛國カ主力艦ノ提案ヲ受諾セルヲ喜フト共ニ潛水艦及補助艦ニ關シテハ協定ノ成立セサルヲ遺憾トスル旨陳述シ右ヲ以テ主力艦問題ニ關シテハ協定成立ヲ見タリ